

## 地震セミナー挨拶文（滋賀県）

### 1 はじめに

本日の「地震に関するセミナー ― 地域における減災対策 ―」の開催に当たり、主催者のひとりとしてご挨拶申し上げます。

私、文部科学省 防災研究地域連携推進官 滝と申します。よろしくおねがいします。

本日は、残暑の厳しい折り、本セミナーにご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

### 2 地震セミナーの意義

本日のセミナーは、「地域における減災」（災害が起こった時の被害をできる限り減らすこと）をテーマに、文部科学省と滋賀県とが共同で主催しております。

そもそも、本地震セミナーの目的は、「地震調査研究推進本部 地震調査委員会の評価の結果など地震調査研究の最新の成果を地域の防災対策関係者や一般の方々に わかりやすく提供し、防災意識の高揚や具体的な防災対策に有機的に結びつける。」ことを目指したものです。本年は、全国12箇所で開催することになっており、本日のセミナーは、第1回にあたります。

地震セミナーは、政府の特別の機関である地震調査研究推進本部の「総合基本施策」を踏まえ、文部科学省が進めている普及啓発事業であり、総合基本施策においては、「地震についての知識の普及のため、防災関係者をはじめとする国民各層を対象としたセミナー、シンポジウムの開催や、地震及び地震防災に関する教育、研修などを充実する。」という政策の下、「国民の理解のための広報の実施」を推進しています。

### 3 地震調査研究推進本部

「地震調査研究推進本部」は、政府の特別の機関として設置されたもので、文部科学大臣が本部長を務めております。

設置の契機は、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災の甚大な被害と地震防災対策に関する多くの課題を踏まえ、同年7月、全国にわたる総合的な地震防災対策を推進するため、議員立法で制定された「地震防災対策特別措置法」にあります。

当時としては、地震に関する調査研究の成果が国民や防災を担当する機関に十分に伝達され、また、活用される体制になっていなかったという課題意識があり、行政施策に直結すべき地震に関する調査研究の責任体制を明らかにし、これを政府として一元的に推進するため、同措置法に基づき当時、総理府の科学技術庁に設置（現・文部科学省に設置）されました。

### 4 おわりに

本日のセミナーによって、滋賀県に影響を及ぼす地震に関する知識が更に深まり、そのことが今後の防災活動の取組に活かされていくことを期待するものであります。

最後になりましたが、本日のセミナー開催に当たりまして、滋賀県をはじめとする関係者の方々に様々な形でご尽力いただき、心から感謝申し上げます。

本日、ご出席の皆様の積極的なご参画により、セミナーが所期の目的を達成することを祈念申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。

「地震に関するセミナー」防災監あいさつ

日 時 平成18年9月8日（金）13:00～16:40

場 所 滋賀県立男女共同参画センター

滋賀県県民文化生活部防災監の北沢でございます。

「地震に関するセミナー」の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

お集まりの皆様方には、大変お忙しいところご出席を賜り、誠にありがとうございます。

また、平素から、本県の防災行政の推進につきまして、格別のご理解とご協力をいただき、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

さて、滋賀県はこれまで災害の少ない県だと言われてきました。しかし、平成15年6月に地震調査研究推進本部から「琵琶湖西岸断層帯」の長期評価が公表されたところ、今後30年の地震発生確率は最大で9%、地震の規模は阪神・淡路大震災を上回るマグニチュード7.8というものでした。

また、東海から九州にかけて被害を及ぼすとされております「東南海・南海地震」につきましても、本県の広範囲で震度6弱が予想されているところです。

これらの地震につきましては、具体的な地震発生確率や想定される被害が、地震調査研究推進本部をはじめ様々な機関から報告されており、待たなしの対策が求められているところでございます。

琵琶湖西岸断層帯による地震では、特に大津市から高島市にかけて甚大な被害が予想されており、県では地震防災プログラムに基づき対策を進めているところですが、県民の重要な交通手段となっておりますJR湖西線や湖西道路の耐震化も国やJRにより進められているところです。

また、震災時に命を守るためには、住宅などの建物が倒壊しないことが重要ですが、本年度から耐震改修促進税制が創設されており、県と市町で行っている無料耐震診断や耐震改修・バリアフリーの補助制度などの活用を広め、住宅など重要な建物の耐震化を進めたいと思います。

減災効果を高めるためには、「自分、家族の命や財産は自分たちで守る」という自助・共助、また行政や消防などの公助というそれぞれが主体的にかつ一体的に取り組むことが大切であります。

最近、自治会を中心とした災害図上訓練DIGによる「まちの姿を知る」具体的な取り組みが進められておりまして、災害に強いコミュニティづくりのために非常に有効であると言われております。県といたしましても、市町や消防関係者など地域の防災関係者に指導者となっていただくよう研修会を実施したところであり、多くの地域や人々にDIGが広められていくものと思っております。

これからも県民の皆さんと行政が一緒になって、災害に強い滋賀県づくりを目指してまいりたいと考えております。

本日は、サブテーマを「地域における減災対策」とし、各分野の第一人者をお招きしております。

文部科学省地震・防災研究課の滝（たき）様からは、最新の研究成果に基づいた「全国を概観した地震動予測地図」について、ご説明いただきます。

また、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターの菅磨志保（すが ましほ）様からは、「災害が起こったら、災害が起こる前に～地域防災力の向上に向けて」と題しまして、富士常葉大学環境防災学部教授の重川希志依（しげかわ きしえ）様からは、「新潟県中越地震に学ぶ地域コミュニティの役割」と題しまして、それぞれ専門の立場からのご講演をいただきます。

パネルディスカッションでは、重川さまにコーディネーターをお任せしまして、5人のパネリストから具体的な事例もご紹介いただきながら、地域における減災対策について議論を展開していただく予定となっております。

非常に盛りだくさんの内容ではありますが、大変貴重な内容ばかりですので、この機会に学んでいただき、今後の地震防災対策に活かしていただきたいと思っております。

最後になりましたが、この地震に関するセミナーを皆様方が少しでも役立てていただき、今後とも防災業務にご尽力いただきますようお願いしまして、開会のあいさつとさせていただきます。